

---

# 護りたいものがあるから僕は・・・

あかる

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

護りたいものがあるから僕は・・・

### 【Nコード】

N2024F

### 【作者名】

あかる

### 【あらすじ】

僕は受験を難なく受かり、普通の生活を送るはずだった・・・

## 第一章プロローグ - 僕と出会い -

ここは「どこ」「だろう」・・・

僕は「なぜ」「ここにいるのだろう」・・・

「何も」わからない・・・

でも僕がわかるのはそこがとてつもなく美しく

誰が見ても見惚れてしまうような綺麗な草原だった

そんな夢をみてから数ヶ月・・・

主人公こと僕「<sup>フユノ</sup>冬乃 <sup>ユキ</sup>雪」は

高校受験を難なく受かり

普通の一般人・・・高校生としての生活を送るはずだった・・・

でも僕のそんな生活予想図を壊してくれたやつがいるんだ・・・

あれは一週間前に遡る・・・

近代的発展に尊敬の意を込めながら

携帯で音楽を聴きながら僕は眠りかけていた

でもそんな眠りかけていた僕は「ある出来事」で一瞬で起きることになった

そう・・・その出来事とは・・・

雪「え・・・？なにこれ・・・」

僕の周りの全てが時間が止まったかのように全く動かなかったのだ  
なぜ気付いたのか？

携帯の音楽が急に聴こえなくなったのだ

そして携帯を開くと真っ黒だったのだ

時計を見てみると・・・

秒針がピクリとも動かないのだ！

電車も電車から見る景色に移っていた草さえも・・・

ピクリとも動かない・・・

電車の中にいた人も当然のように動いてなかったのだ・・・  
そんな中一人だけ動いていたやつがいたんだ・・・

それが僕と「あいつ」との出会いであって

僕の一生の汚点というか・・・失敗だったんだろうなあ・・・

???「あなた・・・動けるの？」

雪「え・・・あ、はい・・・」

???「・・・ごめんなさいね・・・」

雪「え・・・？」

僕はそのとき・・・

手刀を入れられ気絶した・・・

第一話 ・ 僕とあいつ ・ (前書き)

・ 僕はいいつに気絶させられた後・・・なぜかベットで寝てたんだ・・・

第一話 - 僕とあいつ -

僕が気がついたときにはそこは僕の家の子供部屋のベットの中だった

雪「あれ・・・なんで僕はここにいるんだ・・・？」

????「気付いた？」

雪「・・・え!？」

隣には僕に手刀を入れたと思われる人がいた

その人は真っ白いコートのフードを深く被り顔が見えない

でも声からして女の子の人だろう・・・

????「あからさまに驚かなくてもいいじゃない!」

雪「あ・・・すみません・・・」

ってなんで僕が謝ってるんだ!?

雪「いやいやいやいや!僕のほうが文句いいたいよ!」

????「それについては先に謝っておいたじゃない！」

・・・話にならん！

雪「それよりもあなたは誰なんですか？」

????「私？私は・・・」

彼女は自分を「ルル」グランシス」だと名乗った

異世界人であるとも言っていた・・・

まずはどこから突っ込もうかなあ・・・

雪「異世界人って何よ！?!?!?!?!」

ルル「私は魔界からきたのよ。まあそのまんまの意味で魔法が使える世界ね」

雪「魔法・・・？」

はいファンタジックなお話きたー・・・

・・・ごほんごほん！僕のキャラが崩れたね

そつだなあ・・・魔法かあ・・・

なら電車のこともわかるけど何で僕動けたんだろ

雪「なんで僕は魔法にかからなかったんだ？」

ルル「そこなのよ！それが問題なのよねえ・・・っということだ  
魔界まで来て魔法学園に入学してくれない？」

雪「へ・・・？」

Why？僕は高校決まっていますよ？

雪「なぜ？そして僕はもう高校決まっていますよ？」

ルル「そこは私がかんとかするからさ・・・お願い！」

土下座までして・・・

雪「わかりましたよ・・・それでいつ魔界につれていかれるんですか？」

ルル「んー……めんどくさいから今でいい？」

準備できてねえよおおおおおお！

ルル「もちろん準備する時間はあげるからね」

これでひとまず安心だな……

そうして僕は着替えや持って行きたいものをバッグにつめた

持って行きたいもの？

父さんと母さんが残していった「何かわからない」もの……

これは母さん曰く「使うときがきたら開けるのよ……？」らしいです

雪「準備完了だ！」

ルル「なら行くわよ？」

ルルの目の前にはいつの間にか魔方陣が書かれており



## 第二話 - 僕と草原 -

次に起きたときは何やら広い草原だ・・・

いや・・・この草原みたことがあるぞ・・・？

・・・考えてみたが思い出せない

この綺麗な草原・・・

雪「あつ！」

この草原はあのと時の夢の草原だ！

・・・遅れて正夢になった？

雪「それでここはどk・・・あれ？」

いない・・・

あいつがいない・・・

逃げられた!?

・逃げるわけないでしょうに!

雪「どこだ!?!」

・脳に念話で会話を送ってるのよ

雪「・・・それでどこ?」

・私はちよつといろいろあるからまずは一番近くの町みたいなのところを見つけて

って言われたもの・・・

すぐそこにあるけど・・・

なんかものすごくでかい建物が何個もあるところ・・・

雪「町・・・っつーかビル街?」

・・・・気にしない!その町に入ってまずは迎えが行ってるはずだから・・・

雪「待つて！いつのまにそんな事を！？」

- 念話

雪「なんでもありだなあ・・・」

- それは気にしないで、その迎えの人に会ったらこう言って・・・  
「戦死するなら生還してこい」これが私達の合言葉だから

雪「わかったよ」

つとということに向かってのもの・・・

でかくないか？

だって・・・町というかは・・・城だぜ？

そして迎えの人はどk・・・あの人は嫌だな・・・

だって・・・アフロに全身ピカピカでサングラス・・・

え！？何それ！？

????「君が雪君かい？」

雪「へ・・・？あ、はい！そうです！」

「????」ならば合言葉だね・・・「僕たちがもしも戦争に駆りだされたならば・・・」

雪「・・・?ああ、「戦死するなら生還してこい」ですね?」

「????」合ってるよ。ということは君は本物だね・・・」

雪「そうです」

「????」私の名前は・・・」

その人は「ゲイル」ガルシア」だと名乗っている・・・

ゲイル「では早速で悪いが行こうか・・・」

ゲイルがそういつとさっきのアフロのおっさんがきた・・・

アフロ「そうは行きませんよ?」

ゲイル「誰だ!?!」

アフロ「その子を渡してもらおうか?」

ゲイル「追ってか・・・ならば迎撃するのみ!」

アフロ「そつくとお思ったよ・・・ならばこちらにも手はある!」

そついつとアフロは呪文らしきものを唱えはじめた

アフロ「・・・全てのものを喰らいつくし気高き竜をここに呼び出せ! 召喚<sup>サモン</sup>ダイヤモンドドラゴン!」

アフロはそついつと全身がダイヤのドラゴンを召喚し、その後ろに回った

アフロ「ふふ・・・行け! ダイヤモンドドラゴン!」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2024f/>

---

護りたいものがあるから僕は・・・

2010年10月10日01時50分発行